

令和2年(ワ)第6225号, 第31962号、令和3年(ワ)第30042号
六ヶ所再処理工場運転差止請求事件

原告 中嶋哲演 外248名

被告 日本原燃株式会社

証拠説明書 9

(甲126～甲137)

2022年12月6日

東京地方裁判所民事第37部合議C係 御中

原告ら訴訟代理人

弁護士 河合 弘 之
外

| 号証 | 標目 (原本・写しの別) | 作成 年月日 | 作成者 | 立証趣旨 | 備考 |
|------|-----------------------------|-----------|-----------|---|----|
| 甲126 | 全国の原子力発電所の解放基盤表面の位置 (写し) | | 原子力・安全保安院 | 我が国では、地表面がS波速度(Vs)が概ね700m/s以上の硬質な自然の岩盤が地表面にある地域は少なく、原発敷地における解放基盤表面の位置は各原発敷地ごとに大きく異なること。 ①大飯原発、伊方原発のように標高0メートルよりも岩盤が上にあるために解放基盤表面に当たる岩盤の上に直接原発施設を建造したもの、②志賀原発のように標高0メートルよりも岩盤が下にあり岩盤の上に普通の地盤があることから、普通の地盤を掘り下げた後に、解放基盤表面に当たる岩盤の上に直接原発施設を建造したもの、③柏崎刈羽原発、福島第一原発、東海第二原発のように岩盤は地下深くにあるために、解放基盤表面に当たる岩盤の | |

| 号証 | 標 目 (原本・写しの別) | 作 成 年月日 | 作成者 | 立 証 趣 旨 | 備考 |
|---------|---|-------------------|------------------------|--|----|
| | | | | 上に直接原発施設を建造できなかったものに分けることができること。 一般的に広く喧伝されている「原発は堅固な自然岩盤の上に設置されている」というのは誤りであること。 | |
| 甲 1 2 7 | 東海第二発電所における平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震時に取得された地震観測記録を用いた検討 (写し) | 平成 23 年 12 月 26 日 | 日本原子力発電株式会社 | 東海第二原発を運営する日本原子力発電株式会社は、敷地に置かれた地震計及び解放基盤表面付近である標高 - 372メートルに置かれた地震計等によって得られた計測結果を、地表面における最大加速度と地中の地震計の示す最大加速度との間には相当大きな開きがあり、地中の方が明らかに下回っていると分析していること (5頁)。 しかし、地表面の最大加速度と地下の解放基盤表面における剥ぎ取り波に係る最大加速度を対比すると、剥ぎ取り解析をする前の地下の解放基盤表面付近における地中の地震計の示した揺れは地表面の地震計での揺れを大きく下回ることになるが、剥ぎ取り解析をした後の解放基盤表面における揺れと地表面の揺れとを対比すると、南北方向、東西方向においてほぼ同じであったと言えること (25頁)。 | |
| 甲 1 2 8 | 地表位置の距離減衰式から工学的基盤位置の地震動を推定する簡易手法 | 2011 年 3 月 | 坂井公俊、 室野剛隆、 桐生郷史 | 既往の観測記録に基づく報告によると、基盤位置での地震動レベルとして、300~400ガ | |

| 号証 | 標 目 (原本・写しの別) | 作 成 年月日 | 作成者 | 立 証 趣 旨 | 備考 |
|------|--|------------------|---|---|----|
| | (写し) | | | ル程度の場合に地表面位置ではほぼ同程度、それよりも大きな加速度が入力するとPGA（地表面での最大加速度）がPBA（工学的基盤面での最大加速度）を下回るという報告があることなど。こと。 | |
| 甲129 | 岩手・宮城内陸地震で発生した大規模な土砂災害の実態とその多様な意味 (写し) | | 東北学院大 学教授 理 学博士 宮 城豊彦 | 岩手宮城内陸地震が我が国において今世紀最大級の山体崩壊を引き起こしたこと。 | |
| 甲130 | 気象庁震度階級関連解説表 (写し) | 2022年8月23日 閲覧 | 気象庁 | 気象庁震度階級関連解説においても耐震性の高い、すなわち建築基準法改正後の木造建物（住宅）は震度7の地震であっても、「壁などのひび割れ、亀裂が多くなる。まれに傾くことがある」とあること。 | |
| 甲131 | k-net 東北地方太平洋沖地震の全記録（2933ガルを記録した築館から0.2ガルを記録した佐賀県白石まで） (写し) | | 債権者 | 東北地方太平洋沖地震における各観測地点で計測された最大加速度と計測震度、震度階級など | |
| 甲132 | 東日本大震災におけるプラントオペレーションに関するアンケート調査報告書 (写し) | 2013年2月 | (公社)化学工学会 システム・情報・シミュレーション部会 プラントオペレーション分科会 | 最大加速度は周期0.02秒に対応する加速度を指し、計測震度は周期0.3秒付近に対応する加速度を重視して導かれるものであること（120頁）。 加速度と震度階級の概略の対応表は示すことができること（121頁）。 最大加速度は周期0.02秒に対応する加速度を指し、計測震度 | |

| 号証 | 標 目 (原本・写しの別) | 作 成 年月日 | 作成者 | 立 証 趣 旨 | 備考 |
|------------|---------------------|---------------|------------|--|----|
| | | | | は周期0.3秒に対応する加速度を重視して導かれるものであること(117～120頁)。 | |
| 甲133 | 意見書 (写し) | 平成28年 9月9日 | 野津厚 | 野津氏のモデルを含め5つの強震動モデルが紹介されているが、そのうち福島第一原発の直下に強震動生成域があったとしているものはないこと(23頁)。 | |
| 甲134 | 地震について (写し) | | 気象庁 | 1900年以後、世界でマグニチュード9以上の地震は、1960年5月23日のチリ地震(M9.5)、1964年3月28日のアラスカ湾地震(M9.2)、2004年12月26日のインドネシア・スマトラ島北部西方沖地震(M9.1)、1952年11月5日のカムチャッカ半島地震(M9.0)及び2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震(M9.0)のわずか5つしかないこと。 | |
| 甲135 | 青森県の地震活動の特徴 (写し) | | 地震調査研究推進本部 | 青森県東方沖から房総沖にかけてのマグニチュード8.6～9.0の地震が起きる可能性が今後30年以内に30パーセント程度あるとされ、今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率を示す領域が図示されており、本件再処理工場の敷地は震度6弱以上の地震が到来する可能性が6パーセントから26パーセントであることを示す色分けがなされていること。 | |
| 甲136の 1 | 地震・津波被害想定調査 (写し) | 2021年3 月1日 | 青森県 | 青森県の地震・津波被害想定調査の説明資料において、マグニ | |

| 号証 | 標 目 (原本・写しの別) | 作 成 年月日 | 作成者 | 立 証 趣 旨 | 備考 |
|------------|---|---|-----|--|----|
| 甲136の 2 | 地震・津波被害想定調査 説明資料 (写し) | 2021年3 月1日 | 青森県 | 一ド9.0の太平洋側海溝地震が 発生した場合の青森県内の想定 地震分布が図示されており、本件 再処理工場の敷地は震度6強を 示す色分けがなされていること。 | |
| 甲137の 1 | 2020年3月13日石川県 能登半島の最大加速度 (三成分合成)等を示し たもの (写し) | 2022年12 月1日 K- NET 検 索、プリン トスクリ | 原告ら | 防災科学研究所強震観測網に おいて、2020年から2022 年に発生した地震のうち震度5 弱以上が観測された地震のうち 236ガル以上が観測された地 震の最大加速度(三成分合成)等 を示したもの。 | |
| 甲137の 2 | 2020年11月22日茨城県 沖の最大加速度(三成分 合成)等を示したもの (写し) | ーンで取 り込み画 像を鮮明 にする処 | 同上 | | |
| 甲137の 3 | 2020年12月12日岩手 県沖の最大加速度(三成 分合成)等を示したもの (写し) | 理済 | 同上 | | |
| 甲137の 4 | 2021年2月13日福島県 沖の最大加速度(三成分 合成)等を示したもの (写し) | | 同上 | | |
| 甲137の 5 | 2021年3月20日宮城県 沖の最大加速度(三成分 合成)等を示したもの (写し) | | 同上 | | |
| 甲137の 6 | 2021年5月1日 宮城県 沖の最大加速度(三成分 合成)等を示したもの (写し) | | 同上 | | |
| 甲137の 7 | 2021年9月16日石川県 能登半島の最大加速度 (三成分合成)等を示し たもの | | 同上 | | |

| 号証 | 標 目 (原本・写しの別) | 作 成 年月日 | 作成者 | 立 証 趣 旨 | 備考 |
|-------------|--|------------|-----|---------|----|
| | (写し) | | | | |
| 甲137の 8 | 2021年10月6日岩手県 沖の最大加速度（三成分 合成）等を示したもの (写し) | | 同上 | | |
| 甲137の 9 | 2021年12月3日山梨県 東部・富士五湖の最大加 速度（三成分合成）等を 示したもの (写し) | | 同上 | | |
| 甲137の 10 | 2022年1月22日日向灘 の最大加速度（三成分合 成）等を示したもの (写し) | | 同上 | | |
| 甲137の 11 | 2022年3月16日福島県 沖の最大加速度（三成分 合成）等を示したもの (写し) | | 同上 | | |
| 甲137の 12 | 2022年3月18日岩手県 沖の最大加速度（三成分 合成）等を示したもの (写し) | | 同上 | | |
| 甲137の 13 | 2022年6月19日岩手県 沖の最大加速度（三成分 合成）等を示したもの (写し) | | 同上 | | |
| 甲137の 14 | 2022年6月20日石川県 能登地方の最大加速度 (三成分合成)等を示し たもの (写し) | | 同上 | | |
| 甲137の 15 | 2022年8月11日宗谷地 方北部の最大加速度（三 | | 同上 | | |

| 号証 | 標 目 (原本・写しの別) | 作 成 年月日 | 作成者 | 立 証 趣 旨 | 備考 |
|----|---------------------------|------------|-----|---------|----|
| | 成分合成) 等を示したも の (写し) | | | | |